

# muture

## 将来世代のためのミューチュアリズム宣言

2022年4月、丸井グループに新しい会社が誕生しました。その名は「Muture(ミューチュア)」。

丸井グループのDX推進やデジタルサービスの支援を目的に設立されましたが、Mutureのメンバーが抱く夢や志は、企業の垣根を越え、広く社会にインパクトをもたらす内容にまで広がっています。それはMutualism(ミューチュアリズム=相利共生)という言葉に凝縮される独自の企業理念からもわかります。



## デジタル人材の磁場となる

Mutureの創業の背景には、丸井グループのDXに関する課題がありました。

2019年、丸井グループは、創業以来の「小売×フィンテック」にスタートアップ企業や新規事業への投資からなる「未来投資」を加えて三位一体のビジネスモデルを打ち出し、「知識創造型企業」への転換を図るようになりました。

しかし、新たな課題もできました。DXが思うように進まないこと。そして、優れたUXやUIをデザインできるデジタル人材が社内で育成できておらず、不足していたことです。

UXとは「ユーザーエクスペリエンス(お客さまの体験)」、UIとは「ユーザーインターフェース(見やすさ、使いやすさ)」のことですが、ひと言で言えば、プロダクトやサービスを通じて得られる体験を、より快適で、より実りのあるものにするのが、UX/UIデザインです。

丸井グループは、この課題を迅速かつ抜本的に解決するには、外部に協力を求めるのが最善策と考えました。そして、一緒に取り組んでいける共創先を探す中、UXとUIの先進的な企業「(株)グッドパッチ(以下、Goodpatch)」と出会いました。以降、約1年間におよぶ議論の末、丸井グループとGoodpatchとの合弁会社Mutureが誕生したのです。

なぜ合弁会社という形を取ったのか？それはデジタル人材が能力を発揮できる環境をつくるには従来の丸井グループのカルチャーにとられないことが第一の条件であり、さらには、両社の良い文化が融合した会社であることで、有能なデジタル人材——丸井グループが求める人材「プロデュースbyデジタル(デジタルの力を活用して新たなビジネスをプロデュースできる人材のこと)」——が集まる磁場になり得ると判断したからです。

## 大企業のマインドセットを変える

「Mutualism(ミューチュアリズム)」という言葉には経済学と生物学の二つの用法がありますが、Mutureの「相利共生」の理念(左ページの図)は後者に由来します。つまり、「異なった種類の生物が互いに何らかの利益を交換しあう生活」(三省堂『大辞林』第一版)というWell-beingな意味を持つ言葉。多種多様な価値観や個性を持つ人たちがフラットでインクルーシブな関係を築き、そこで「新しい価値」や「しあわせ」を共に創ることがミューチュアリズムです。

Mutureのような新しい会社では、さまざまなトライアルができ、多様な個性を活かす環境が構築できます。一方、大企業ではフラットなコミュニケーションは取りにくく、思い切った挑戦もしにくいものです。とはいえ、それを変えていかないことには、丸井グループが求める「プロデュースbyデジタル」のカルチャーは醸成されません。

例えば、オンラインとオフライン(リアル体験)の融合はデジタル人材には当たり前の思考です。しかし、長年、小売のビジネスを行ってきた丸井グループはリアルでの体験を起点とする思考が残る傾向にあり、UXデザイナーなどのデジタル人材との間には大きなギャップが存在します。Mutureは「相利共生」の理念のもとでDX支援やデジタルサービス支援といった日常業務を重ねることで、丸井グループ内にマインドセット変革を起こそうとしています。

さらに重要なのは、丸井グループの支援のためだけにMutureは設立されたわけではないということ。現在進行中の丸井グループ内での活動は、マインドセット変革の事例づくりであり、それが日の目を見たあかつきには、他の企業・組織のプロジェクトにチャレンジしていくことも視野に入れています。

### 株式会社 Muture

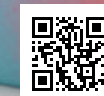
2022年4月27日、丸井グループとGoodpatchの両社から出向した5名でスタート。現在は、丸井グループのエポスカード会員さま向け「ライフスタイルアプリ」やマルイの来店サービス「OMEMIE(おめみえ)」サイトのUX/UI支援、丸井グループ内のDX支援を行っている。



Muture公式サイト



Twitter



note